

社会性への広がり

一育てよう青年活動一

まいとし土佐園芸を学ぶために農業青年が県外から派遣されてきますが、こしは静岡県の農業青年研修生が、市内の園芸地帯の一つである浜改田へやってまいりました。

これらの研修生は、一般農家に分宿しその家族の一員となつて、その技術を実際に体験し、勉強しようというものです。

ところで浜改田公民館で開かれた静岡の青年たちと、地元青年たちとの交換会へ向き、青年たちの意見を録録していただきました。

意見の交換会から

青年学級の本質は学習により教養を身につけることにあり青年団は実践することによって、地域の向上と自己の修養に役立たせるといふことで、本質的には違いますが、それが青年の活動が活発になるためには、両立しなければならぬといわれています。

事実静岡県でも、青年活動の活発なところは学級と団とが両立しているといふ意見が多く出されてきました。

ところで青年団や、青年学級活動の現況は、ひとところのようはなややかさはないにしろ、地味な活動が続けられているようです。

青年たちの話し合いのなかで発表された静岡県三原市の青年学級の場合は、

地区別、職業別それに中央の六学級が運営され、そのうち中央学級では、月曜、火曜、水曜、木曜、金曜の四講座と、土曜、日曜の二講座が、午後七時から九時までの二時間行なわれ学級生の定数は各講座ごとに六十人、一人一講座といふことでなく、本人の希望によって全部の講座の学級生にもなれます。

親の理解を深めよ

ほしい時間の余裕

にめぐまれた内容のものは、ないよです。と

ろで青年学級の効果といった面での意見では知識の幅が広くなり、社会性ができた。

人に話をするのに恥かしくなくなり、多人数のまえでも自分の意見を



(空から見たハウスぐん)

だが、土曜のクラブ活動は、全学級員の自由参加で、平常顔を会さない学級員がいるので、お互い知り合い、親睦を深めるために行なわれ、しかも、各学級とも月一回の運営委員会により自主的に運営され、講師は高校大学の研修所の先生、警察、市長など地元の学識者から選らび婦人青少年会館で開られることである。

南門市にも地区、中央と合せて三学級を数えますが三原市のよう

にめぐまれた内容のものは、ないよです。と

ろで青年学級の効果といった面での意見では知識の幅が広くなり、社会性ができた。

人に話をするのに恥かしくなくなり、多人数のまえでも自分の意見を

発表できるようになった。社会性の広がりから、人間性が豊かになった。

言葉ではあはせない、自然のうちにはえ得るものがある。

ということが確認されました。

しかし、その反面青年学級や青年団には、それぞれの問題点をかかえているようです。

それは、生活の現実に追われ学習の機会が少なく、自分の好きな時間に好きな勉強といったような時間的な余裕がない。

また、青年や一般の人たちの意識の問題もある。百姓だから出ていってほしいという問題もある。百姓に周囲の見る目が旧態依然として「ヤブニラミ」であって、理解度が低いといふことは、理解しようとする努力が足りないといふことにあるようです。

朝早く勤めに出て夜おそく帰へつてくる青年たちが、出席できる青年学級といつたものを考えてみてはどうだろうか。親の理解を深め周囲の見る目を改めさせるために

考えと違った方法は考えられないといふ考えがある。いまは百姓も近代企業として勉強してゆかなければ、他産業とは大力打ちできないときであることを考えてもらいたい。

職業の差を考へることはナンセンスだ、ホコリをもってほしいとくにホコリ高き農業といふものに、……

青年を持つ親（とくに女性の青年）の理解がほしい。親は悪い方向に考え勝ちで、青年団や青年学級の本質を理解してくれない人たちもある。だから周囲の人たちへのアピールすることも大切だ。

など、いろいろの問題点が出されました。それは青年自身の意識の問題と、青年が土地を放れてその数が少なくなり、また生活に追われ時間的な余裕のないこと、それに周囲の見る目が旧態依然として「ヤブニラミ」であって、理解度が低いといふことは、理解しようとする努力が足りないといふことにあるようです。

青年たちの

は親子学級といつたものをときどき開らくことも大切でなからうか、というような声もあり、青年の学級を愛し、団を愛する気持ちといったものが感じられました。

ハウス作業に従事して考えたこと、気の付いたこと、また生活については、夜おそくまでがむしやらな作業振りに一

期があり、仕事の上下がひどく年がら年中それでは体は弱るもたない、労働的にルーズな面があり、まあ適当にやっていると。いまはハウス作りで忙しい時期だ、地域全体の休む農休日はないが考える必要がある。

という説明がなされましたが、むかしからの風習ということもあるでしょうが、食事もそそくさとして仕事をしようといふことは、他県の人には理解できないものさうです。土佐人の「せつかつかさ」といったものをむきだしにしたものといえます。

美しい女性

また、土佐人気質などについては、女性の人たちは美しく親切だし、男性はとりつくしませんが、いように一見みえて話しかけにくい、しかしなかなかどうしてぶつさらばうだがすぐく親切で人情味があり親しみやすい。

また、女性がよく働くことだ。それに女と男の仕事の差別がない。それが当然のようになんの抵抗もなくみんながよくやっています。家族とともに働くことはよいことだが、そのため労働過

はげしい労働に まずしい食事に

静岡では五十歳になれば息子にまかせ、五、六年すれば完全にゆずり、その後はときわりの手伝いといったもので、六十歳を過ぎるとほとんど仕事はしてないし自転車にも乗らない。しかしここでは自転車のみでなくバイクにも乗り、農家の主人としてまっ先に立ち元気に働いているのはおどろきだ、それだけおとしよりが若く見える。

園芸も土佐は古くからやり経験者もおとしよりに多いが、静岡は戦後始まったもので経験者といつても四十歳代である。

高収益を上げていのに衣、食住に経費をかけていない、食事は総体的に悪い、ここには肉屋を見かけないが、酒屋と魚屋、

そして駄菓子屋が多い。家庭にはいつて生活してみてもどうも「カカー天下」のようである。と女性族の強さを強調しているようです。それが家庭円満のシンボルといえます。

ところでおとしよりが若く、しかも元気で働きものであることに感心していますが、衣食住に対しては、働いて蓄積するだけではなく、適当に生活をたのしむことを考えるべきだと苦言を呈しています。

静岡では労働銀行により、お互いに助け合っているさうです。そういう労働銀行も大切ですが、これからの農業のあり方をどのように考え、改善し、そして合理化することにより他産業との格差のないたのしい農業を打ちたてることは後継者問題を解消する一つの策といえます。